

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

36~16

昭和十六年六月

円高及米國中心戰時体制下於貿易概況

(第一部)

国立公文書館	
分類	③ ④
配架番号	3 A
	15
	36 - 16

15057 36-16
 (9) Sack 18
 Item 9

昭和十六年六月

戰時體制下ニ於ケル貿易概況
 圓ブロック及ビ米國ヲ中心トスル

(第一部)

警視廳情報課

国立公文書館	
分類	(逆) (背)
配架番号	3 A
	15
	36-16

SHIPPING ADVICE# _____
 SACK # _____
 ITEM # _____

機密事項ヲ中心トセルモノナルヲ
以テ取扱ニ充分ナル注意ヲ拂ハレ度シ

目次

第一部

緒言

(一) 貿易ノ基調ト一般概況

(1) 貿易ノ基調

(2) 輸出入貿易ノ一般概況

(1) 第三國向貿易概況

(四) 圓ブロック貿易概況

(二) 輸出入貿易ノ推移並ニ變化ニ就テ

(1) 總額

(2) 貿易尻

(3) 輸出貿易ノ變化

(4) 輸入貿易ノ變化

(三)最近ニ於ケル輸出入貿易ノ狀況

- (1)總額、貿易尻
- (2)輸出狀況
- (3)輸入狀況

第四項以下第七項迄第二部

緒言

戰時體制下ニ於ケル貿易狀況ノ推移並ニ變化ト現況ヲ見痛感セラルルハ
國際情勢ノ緊迫化ヨリ生ジ來リタル貿易ノ理念組織機構運営ニ對スル貿易
基調ノ變化即チ生産ヲ目的トスル高度ナル計畫貿易實行ヘノ轉換ト斯ル事
体ヲ反影シ急速ニ改變セラレツツアル貿易ノ實相及急轉換ニ伴フ必然的ナ
關係部門ノ動搖ナリ

次ハ總貿易上ニ惡影響ヲ及ボシツツアリタル區域貿易ノ變化ト調整ノ效果
ヲ擧ゲツツアル實相ト近來依存度ノ最も高カリシ對米貿易ノ地位ノ變化之
レニ伴フ中、南米及蘭印、佛印、比律賓、タイヲ中心トスル南方ノ變化
即チ米國ノ對日經濟壓迫的禁輸措置強化ニ伴フ對米輸入減退ト物資獲得面
ノ中、南米南方ヘノ轉換ノ實相ナリ
加之ニ歐洲、亞弗利加ハ近東方面ヘノ戰火擴大ニ伴フ輸出入貿易對照ヨリ
ノ轉落ト全方面ヲ對照トセル輸入、輸出關係部門ノ急速轉換困難ニ伴フ貿
易不振ノ實相ナリ

以上ノ如キ變化或ハ轉換ノ吾國經濟界ニ與フル影響ハ甚大ナルベク之レガ實
相ヲ調査スルニ大要別記ノ如シ

(一) 貿易ノ基調ト一般概況

(1) 貿易ノ基調

吾ガ國貿易ノ基調ハ昭和十二年ノ支那事變發生ヲ轉期トシ歐洲大戰ノ勃發日、獨、伊三國同盟締結ノ各々ヲ境トシ著シク變化シ變轉極マリナキ國際情勢ヲ反影シ貿易ノ理念機構組織並ニ其ノ運營ニ從來トハ其ノ基調ニ異ニシ來リタルナリ

即チ事變發生當初ニ於テハ生產力擴充ト共ニ外貨獲得ノ重要性ヨリ輸出ノ振興ガ叫バレタリ而リト雖モ貿易ノ基調ハ依然トシテ自由競爭ヲ目的トスル私的經營形態ノモトニ價格ノ高低即チ利潤ノ大小ヲ中心ニ無指導的ニ運營セラレツ、アリタリ

此ノ結果ハ貿易狀況ノ變化ニ示ス如ク見越輸入ノ著増トナリ重要物資確保ト國際收支均衡トノ立前ヨリリシ夕制ガ採ラレ一方圓ブロックノ開發資材其他ノ需要激増及内地物價統制強化ニ伴ヒ統制圈外タル圓域ヘノ物資逃避ガ激發セラレ圓域ノ調整ヲ必要トシ貿易統制ハ益々強化セラレタルナリ

此處ニ於テ自由主義個人主義的貿易基調ハ組合其他ヲ中心トスル團體的

ナルモノニ移行スルニ至リタリ而ルニ

歐洲大戰ノ勃發ハ磅ブロックヲ中心トスル吾國輸出貿易ノ決濟上ニ不安ヲ與フルニ至リ爲替管理ノ強化カラ漸次求償貿易ニ轉換次デ日、獨、伊三國同盟締結ノ外交方針ノ大轉換ハ英米依存ノ貿易方針ヲ擲擲大東西共榮圈ノ自給自足體制ヲ目標トスルニ至リ從來ノ商業的貿易ハ生産的貿易主義ヘノ轉換ヲ必要トシ就中吾國輸入市場方戰時的類別ノ下ニ選擇的トナリ當然ノ傾向トシテ局所集中的トナリ貿易ノ變化ニ見ル如ク或ハ商品別貿易狀況ニ見ル如ク米國ヘノ依存度ヲ特ニ顯著ナラシメテ居ル現狀ト米國ノ對日經濟壓迫輸出ノ禁止的措置強化ハ商業的貿易ヲ許サヌ事トナリ現在及今後ノ貿易基調ハ

(A) 生産ヲ目的トスル高度ナ計畫性ヲ基調トスル即チ計畫の生産ニ必要ナル物資ヲ獲得スル事方今後ノ貿易ノ根本方針デアリ

從ツテ物動計畫ニ基ク物資ノ輸入促進ニ重點ヲ置キ求償制ノ方式ニ依ツテ之レヲ規正スル事ニ依リ勢ハ輸出面ニ於テモ限リアル物資ヲ最高效率ノ實現ノ爲ニ從來ノ賤價多賣の輸出振興方針ヲ清算シ單ニ經濟的理由ノミデナク政治的外交的動因勢力ニ依リ求償ノ手段ヲ用テ或

ハ政治的外交の手段トシテ動かサルル形態

即チ貿易ノ運営ノ輸出入ガ全面的ニ計畫化セラレ

(B) 一元のナ國家機關國家意思ノモトニ推進セララル事トナレリ

此處ニ於テ貿易ノ組織機構ハ斯ル方針運営ニ適スル如ク改變セラレネバ已マヌノデアリ既ニ第三國ニ就テハ日本貿易振興及輸出品買取會社ヲ中心ニ圓域ニ就テハ東亞輪聯ニ於テ計畫貿易ノ實現方計ラレ後者ハ數量ヨリ價格統制ヲモ實行ニ移シテ居リ着々實現ニ向ツテ歩ヲ進メツツアリ一方從來ノ組合主義ヲ揚棄シ總動員法ニ基ク貿易統制會社ヲ創設戰時貿易運営ノ中樞機關タラシメントスル氣運モアリ組合主義ノ改變ニ就テハ品種別ヲ中心トシ地域別ヲ下部ニスルモノ或ハ他種別ヲ中心トスルモノトノ意見ニ別シ居ルモ斯ル事情ヲ示唆スルモノトシテ既ニ南洋貿易會社設立アリ先當リ佛印トノ求償貿易ノ統制ヲ行フ事トナリ居レリ

斯ル貿易ノ基調變化ハ如上ノ形態ヲ各國ニ或ハ各品種別ニ整備セザレバ已マサルモノヲシテ此ノ結果ハ當然のニ南洋貿易ニ見ラルル如キ代行商社制ト適正口錢主義、輸出商品ノ貿易價格制ノ實現ハ必至ナルベクソ聯ニ就テモ同様ナ形態ノ實現ガ豫想セラレツ、アリ

尙又決濟ニ對スル不安ハ輸出補償制度ノ擴張ヨリ更ニ進ンデ現在ノ如キ自衛的ナ爲替ノ即金主義カラ日蘇貿易ノ圓貨支拂協定ニ見ラル、ガ如キ形態ヘト進ム一方既ニ實施ヲ見タル英磅外ハ通貨ノ磅爲替集中カラ米弗ノ外カナダ弗、南米諸國通貨スキスフラン等英系通貨及ビル、ブル以外ノ總テノ通貨ヲ包含スル弗爲替集中ガ近ク採ラレントシテ居ルノデアリ吾國爲替管理ハ飛躍的ニ強化ガ實行ニ移サレントシテ居リ新タナル基調ニモトツク貿易體制ノ基礎ハ着々ト築カレツ、アリ此ノ事ハ代行商社制口錢主義の制度ノ進展或ハ組合主義ノ改變カラ中小貿易業者及之レニ至大ナ關係ヲ持ツ生産部門ニ與フル影響ハ甚大ナルモノアリ斯ル形態ノ發展ト共ニ其ノ動向ハ最モ注意ヲ要スル處ナルベシ

(2) 輸出入貿易ノ一般概況

輸出入貿易ノ推移變化及國別商品別情況ハ最初ノ轉換期タル昭和十二年支那事變勃發ノ年ヲ基礎トスル昭和十五年度迄ノ經過ト最近ノ實情即チ本年四月迄ヲ基礎トシ別項ノ如ク分類詳述セルガ前記ノ如キ貿易基調ノ變化ヲ反映シ顯著ニ此ノ方向ニ進ミツツアルハ國別輸出入、商品別輸出入ニ依ツテモ明ニ之レヲ示唆シツツアリ

(4) 第三國向貿易概況

即チ輸入貿易四月迄ノ狀況ハ總額ニ於テ前年ト殆ト同様ナリシガ從來軍需並ニ生産力擴充資材タル機械類、スクラップ其他鐵鋼關係、原油、重油、バルブ、棉花等依存度ノ最モ高度ナリシ米國ノスクラップ、原油重油等ヲ中心トスル禁輸の措置強化ハ貿易統計上ニ如實ニ現ハレ益々強度化セントスルノ風アリ此處ニ於テ中南米ノ輸入對照國トシテノ地位ハ強く中心ニ變化ナシト雖モ此ノ方面或ハ蘭印、比律賓、佛印、多イ等ヘノ轉換ガ見ラレ計畫的貿易體制ハ輸入ノ面ニ強く現ハレツツアリ斯ル重要物資確保の見地ヨリノ輸入國轉換ハ今後益々強度化スル事ハ米國ノ態度如何ニ依リテハ決定のナモノトナリ行クベク從ツテ政治的外交的措置モ活潑化スル事ガ豫想セラレツ、アリ日ソ貿易協定ノ如キハ其ノ現ハレニシテ蘭印ノ對策モ亦此ノ線ニ外ナラザルベシ斯ル努力ノ結果ハ今後ノ輸入ニ於テモ大体前年全期トホボ平行スル事ガ豫想セラルト共ニ其ノ重要性ハ現行ノ重點商社取扱性ヲ一層高度化スル事ガ豫想セラレ求償貿易制ノ擴大ハ輸出ニ於テモ亦之等重點商社ノ獨占的形態ヲ促進スベク代行商社適正口錢主義ハ急速

ニ具體化スル情勢ヲ馴致シツツアルナリ
一方輸出ハ歐洲市場近東市場ヘノ範圍ガ戰火ノ擴大ヨリ急激ニ縮少セラレツツアリ從ツテ此ノ方面ヲ對照トセル罐頭詰食料品、絹織物雜品輸出困難トナリ阿弗利加方面モ亦同様ニシテ南阿ヨリハ多少ノ引合アリト雖モ船腹ノ不足、航路ノ危險擴大ヨリ大ナル期待ヲ爲シ得ズ近東方面ノ輸出減少ト共ニ綿織物雜品ニ對スル打撃ハ大ナルベク之レニ反シ佛印、英印、蘭印、多、等南洋方面及多シヨヲ中心トスル中米方面ハ前三者ノ本國ヨリノ輸入杜絶、或ハ獨伊ヨリノ輸入減ヨリ品薄傾向濃化シツツアルヲ以テ此ノ方面ヘノ綿織物、人絹織物、人絹絲等ノ輸出ハ前半活狀ヲ呈シアルゼンチン機業ノ勃興ハ南米方面ヘノ織物輸出ニ障害ヲ與ヘツツアリト雖モ此ノ方面ヘノ綿織絲ノ輸出ニ好影響ヲ與ヘタルモノノ如シ而シ四月以降ハモンスン季節旁ニ一頓座シ居リ現在迄ノ狀況下ニアツテハ好調ト云フヲ得サルナリ
吾國輸出貿易ノ大宗タル生絲ハ決定的地位ニアル米國ノ生絲消費ノ減退傾向ニアリテ蠶絲統制ノ結果或ハ國內の事情モアリ糸價ハ千六百圓ヲ突破シツツアルト雖モ輸出ノ好轉ノ結果ニハアラザルナリ

綿織物ノ輸入モ亦手控傾向ニアリ米國ヘノ輸出ハ罐詰食料品ノ轉換的賣込増加絹織物等ノ増加アリタルモノノ如ク四月迄ノ狀況ニ於テハ一七。二%ノ増加トナリ居レルガ米國ニ對スル入超額ハ吾國貿易總額ニ於ケル入超額ヲ突破シ居ル事ハ特ニ注目セララル處ナリ埃及綿ノ輸入困難ハ米綿、印綿ヘノ依存度ヲ高メツツアルハ事實ナルガ之レニ就テハブラジル綿ガ相當輸入對照トナリタルモノノ如キモ海外市況ハ引續キ米綿、印綿ノ高値ヲ報ジ從ツテ綿織物ノ買氣ヲ刺隙シツツアルガ積極的買物ハ見ラレザルモノノ如シ
四月迄ノ輸出成績ハ全計ニ於テ一億七千萬圓一四。五%ノ減少ニシテ前年ニ比シ不振トナリ五、六月ノ纖維關係輸出ノ頓座ハ上半期成績ヲ更ニ低下スル事ガ豫想セラレ業界ノ速カナル整備擴充ト共ニ輸出振興方策ノ急速具體化ハ急務ナルベシ

(四) 圓ブロック貿易概況

圓域貿易ハ物資交流外貨獲得兩面ヨリ總貿易上ニ於ケル地位ノ變化シ觀察調整ヲ加フベキモノデアリ其ノ地位ガ全貿易ニ與フル影響ハ別項ニ於テ其ノ都度詳記セルガ最近ノ概況ヲ本年度四月迄ノ狀況ヲ基礎ト

シ見ルニ圓域貿易額ニ於テノ變化ハ次ノ如ク前年ニ比シ九千六百十八萬九千圓ヲ減ジ居リ右ハ輸出ニ於テ其ノ中心タル機械類鐵製品ノ減少ト圓域輸出ノ調整カラ從來トハ其ノ趣ヲ異ニシ異狀ノ増加カラ反轉シテ一八。九。ト逆ニ減少セル爲ニシテ之レニ反シ輸入ハ豆類石炭等ノ増加カラ九。程度ヲ増加シタニ依ルモノナルガ貿易尻ノ大中出超ハ斯ル調整措置ニ依リ著シク減少セラレ居リ右ノ如キ傾向ハ今後共持續カ豫想セララルヲ以テ貿易總額上ノ圓ブ四ツ少第三國ノ不均衡ハ漸次是正傾向トナルコトガ豫想セラル此ノ事ハ第三國貿易カラ轉落セル群小貿易就中輸出業者及關係產業部面ニ與フル打撃ハ國內的問題トシテ相當注目ヲ要スル處ナルベシ

圓ブ四ツ少貿易總額ト貿易尻前年比較（四月迄累計）

（單位千圓）

	十六年	十五年	比較
貿易總額	八〇〇、一三〇	八九六、三一九	九六、一八九
貿易尻（出）	一九九、四七一（出）	三三五、七〇一	一三六、二三〇
貿易總額ト貿易尻ノ前年全期ニ對スル割合			

總額 八九。四 貿易尻 五九。四

右ノ如ク總額ニ於テ八九。四ト一〇六程度ノ減少ナルニ不拘貿易尻ノ五九。四ト四〇。六ノ著シキ減少ナリ而モ此ノ事タルヤ輸入ノ減退即チ滿、關、支ノ物資供給力ノ減退ニ依ツテ招來セラレタルモノニ非ズ輸入増加ト輸出増加ト調整ノ兩好結果ニ依ツテ齎ラサレタル點ニ於テ喜ブベキ現象ナルナリ今後此ノ形態ガ圓ブ四ツ少ヨリノ輸入増加ヲ主因トシテ形成セラルルナラバ最モ健全ナリト云フヲ得ベシ

モトヨリ建設過程ヲ脱セザル圓ブ四ツ少ノ現狀及吾國ノ地位ヨリ考フルナラ或程度ノ出超ハ當然ノ歸結ニシテ何等危惧スルノ要ナカルベシ

(二) 輸出入貿易ノ推移並ニ變化ニ就テ

昭和十二年度以降昭和十五年度迄過去四ケ年間ノ貿易ノ推移並ニ變化ヲ見ルニ次ノ如シ

(1) 總額

輸出入總額ニ就テ其ノ變化ヲ示セバ左ノ如シ

（單位千圓）

昭和十二年	七、二七一、八九〇	前年比較増減	全上割合
十三年	五、七一九、九七二	△一、五五一、九〇八	△二一、三%
十四年	七、〇四二、三四五	一、三二二、三七三	二三、一%
十五年	七、六七七、〇九七	六三四、七五二	九、〇%

吾國貿易ハ昭和六年ヲ大底トシ以後逐年躍進ヲ示シ昭和十二年ニハ右表ノ如ク七十二億七千萬圓ト開國以來ノ最高記録ヲ示シタルガ昭和十三年ニ至リ支那事變ノ影響ヲ受ケテ前年ニ比シ十五億三千万圓ト減シ五十七億一千萬圓ト逆轉次デ十四年ニハ再ビ六十四億九千萬圓ト回復昨十五年ニハ更ニ躍進シテ七十六億七千萬圓ト昭和十二年ノ最高記録ヲ突破スル事四億圓トナリ記録ヲ更新スルニ至リタルナリ

從ツテ

昭和十二年度	百トスル指數ハ
昭和十二年	一〇〇、〇
十三年	七八、七
十四年	九六、八
十五年	一〇五、六

表面的ニ見ル時ハ吾國貿易額ノ全世界貿易額ノ上ニ占ムル順位、割合ハ昭和十三年ノ英米獨佛ニ次イデ第五位四。五%ヲ越ヘ英獨ニ肉迫シツツアル事方豫想セラレツ、アリ

(2) 貿易尻

右ノ如ク貿易總額ニ於テハ樂觀シテ可ナル如ク見コレ共内容的ニ之レヲ檢討センカ樂觀ヲ許サザルモノ多々アルナリ

先ヅ貿易尻ノ變化ニ就テ之レヲ見ルニ次ノ如シ

入出超總額ノ變化 (單位千圓)	昭和十二年	入超	六三五、〇二六
	十三年	出超	七〇、二一六
	十四年	〃	七九〇、一三九
	十五年	〃	二六〇、六〇一

即チ入超ハ昭和十二年ノ六億三千五百萬圓ヲ最後ニ以後出超ニ轉ジ居リ昭和十四年ノ如キハ七億九千萬圓ヲ示シ昨十五年ハ前年ニ比シ五億三千万圓ヲ著減シ居ルト雖モ尙二億六千萬圓ノ出超ナリト云フヲ得ベシ

然レ共貿易内容ノ變化ヲ見ルトキハ右ノ如キ出超ハ問題トナラズ即チ戰

時體制下ニ於ケル貿易ノ至上命令タルヤ外貨ノ獲得デアリ之レニ依ル軍需並ニ生産力擴充資材ノ確保ニアル外貨ノ獲得ヲ招來セザル國ブツヲニ對スル出超ガ異狀ニ上昇シ反對ニ第三國ハ依然トシテ多額ノ入超ヲ待續シテ居ルコトガ實情ナリトスレバ喜ブベキ狀態ナリト云フヲ得ヌ之レガ實情ヲ示セバ左ノ如シ (一單位千圓)

第三國 國ブツ

昭和十二年	入超	九八七、二〇〇	出超	三五二、一四
十三年	〃	六一三、二七七	〃	六一三、二七七
十四年	〃	四七〇、〇一三	〃	一、二六〇、一五二
十五年	〃	九七八、八〇〇	〃	一、二三九、四〇一

右ノ如ク總額ヲ第三國國ブツニ類別シ見レバ明ナル如ク外貨獲得ノ使命ヲ持ツ第三國貿易ハ入超持續シツツアリ昭和十五年度ハ九億七千八百萬圓ニ昇リ居レルガ後述スル如ク國際情勢ノ惡化ニ伴ヒ重要物資ノ輸入ニ異狀ナ努力ガ拂ハレタル結果ニ外ナラズ其他尙多クノ理由ヲ有スルニハ相違ナケレ共延取引ヲ除外シテモ決濟ノ對照トナルモノハ少ク共六七億ニ昇ル事ヲ思ヘハ國際收支ノ均衡ヲ堅持シツツ軍需並ニ生産力擴充

資材ヲ確保スル事ガ國策ノ樞軸ヲナシ不要不急品ノ輸入ヲ極度ニ制限シ第三國輸出ノ振興ヲ圖ルノ要ハ益々痛感セラレツ、アリ之レニ反シテ國ブツ向ハ昭和十二年ニ於テ三億五千萬圓程度ナリシ出超ガ十三年ニハ六億一千萬圓トナリ十四年ニハ一躍十二億六千萬圓ノ巨額ノ出超トナリ國ブツノ商品單價高ハ對滿關支輸出入物資價格調整令ニモ不拘依然トシテ可ナリ多クノモノガ流ルル一方國ブツヲ生産品ノ内地流入ヲ阻止スル形トナリ彼我ノ價格ニ依ル弊害ヲ除去スベク一元の統制機關ヲシテ輸出入物資價格ニ就キブール制ノ運用ニ依ル調整ニ當ラシムルニ至リ昨十五年度下期ニ至リ漸ク減少傾向ニ轉ズルニ至リタルナリ之レハ十五年度出超ガ十二億三千九百萬圓ト前年ニ比シ二千百萬圓ヲ減ジタル事及次ニ示ス國ブツ輸出入ノ變化ニ依ツテモ明ナリ

(3) 輸出貿易ノ變化

輸出貿易ノ事變發生以來ノ變化ヲ見ルニ次ノ如シ (一單位千圓)

昭和十二年	三、三一八、四三二	前年比増減	全上割合
十三年	二、八九五、〇九四	△四二三、三三八	△一二、八%
十四年	三、九一六、二四二	一、〇二一、一四八	三五、三%

十五年 三、九六八、八四九

五二、六〇八

一、三%

輸出貿易ノ變化ヲ見ルニ昭和十二年度好況時代ノ三十三億臺ニ次ギ十三年ハ二十八億臺ニ落チタルモ昭和十四年ニハ十億二千萬圓三五。三%ヲ増加三十九億臺ヲ突破昨十五年ニハ更ニ五千萬圓ヲ増加シ三十九億六千八百萬圓ト事變ノ長期化ニ伴フ國內ノ困難性ヲ克服シテノ發展ハ驚異ニ價ヒスルモノアルナリ

而リト雖モ輸出ノ躍進ヲ無條件ニ認識スル事ハ許サレヌ實狀ニアル蓋シ吾國戰時經濟運営ノ原動力トシテ輸出ノ振興ヲ重要國策トスル所以ノモノハ外貨購買力ノ獲得ニアルハ云フ迄モナキ所ナリ然ルニ右數字中ニハ彼我ノ物價差ニ乗ジ通貨基礎不安定ヲ好期トシテ激成セラレタル所謂圓ブロツク向輸出ガ次ノ如ク驚クベキ割合ニ於テ増加シツツアルガ故ニシテ之レガ調整ニハ凡コル手段ガ盡サレ居ルモ依然トシテ其ノ趨勢ニハ大シタ變化ハ見ラレザルナリ今後此ノ方面ノ調整ハ急務ナルベシ

圓ブロツク向輸出ト總輸出額ニ對スル割合ヲ示セバ次ノ如シ(單位千圓)

昭和十二年

九〇〇、〇七八

二七、一%

十三年

一、三五五、七三二

四六、八%

昭和十四年

二、〇七八、七三二

五三、一%

十五年

二、一四七、一三二

五四、一%

然カモ此ノ事タルヤ實際輸出量ノ増加ヨリ來ルモノニ非ズシテ單價ノ値上リヨリ來ル輸出價格ノ膨脹ナル事ハ將來圓ブロツクノ健全ナル發達ヲ目標トスル吾國ニ於テハ最モ注意ヲ要スル處ナルベシ

主要國卸賣物價指數ニ依レバ昭和四年ヲ百トシ昭和十四年十二月八日本ノ一四三ニ對シ中華民國ハ實ニ三五五ヲ示セリ

對第三國向輸出ハ其ノ重要性ニモ不拘圓ブロツト其ノ位地ヲ變ヘツツアルハ云フ迄モナク其ノ狀況ヲ示セバ次ノ如シ(單位千圓)

昭和十二年度

二、四一八、三五四

總額ニ對スル割合 七二、九%

昭和十三年度

一、五三九、三六二

總額ニ對スル割合 五三、一%

昭和十四年度

一、八三七、五一〇

〃 四六、九%

昭和十五年度

一、八二一、七二七

〃 四五、九%

右ニ見ル如ク昭和十二年ニ於テハ輸出總額ノ約七割三分ヲ占メタリシ第三國向輸出ハ昨十五年ニハ圓ブロツク其ノ位置ヲ轉換シ四割五分九里ト著シキ低下ヲ示セリ

昭和十二年ヲ百トシ指數ニ依ツテ其ノ變化ヲ見ルニ次ノ如シ
輸出

圖ブロック 第三圖 計

昭和十二年	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十三年	一五一	六四	八七
十四年	二三一	七六	一一八
十五年	二三九	七五	一一九

昨十五年度ニ於テ圖ブロックハ實ニ二三九ト異狀ノ増加ヲ示シタル反面
第三國向ハ七五ノ低位ニアル事ニ依ツテモ此ノ間ノ事情ハ明ナルベシ

(4) 輸入貿易ノ變化

輸入貿易ノ事變發生以來ノ變化ハ左ノ如シ

輸入總額 (單位千圓)

昭和十二年	三、九五三、四五八	前年比増減	全上割合
十三年	二、八二四、八七八	△一、一二八、五八〇	△二八、五%
十四年	三、一二六、一〇三	三〇一、二三五	一〇、七%
十五年	三、七〇八、二四八	五八二、一四五	一八、六%

不急不要品ノ輸入ガ抑制セラレツツアル現状ニ於テハ輸入ノ變化ハ一
軍需並ニ生産力擴充資材及輸出用原材料其他食料品等重要物資ノ確保ノ
狀況ヲ示スモノナルガ右表ノ如ク國際情勢ハ緊迫ノ一途ヲ辿リ英米ノ對
日經濟壓迫ハ日ニ強化サレツツアル際ニモ不拘十四年、十五年ノ輸入ノ
増加ハ對照物資ノ單價値上リヲ考慮スル時ハ量的ニ満足スベキモノニ非
スト雖モ異狀ナル努力ノ成果ハ見ラルルナリ之レガ内容ヲ圖ブロック第
三圖ニ分類スルニ左ノ如シ

圖ブロック輸入額及總輸入額ニ對スル割合 (單位千圓)

昭和十二年	五四七、九〇四	一三、九%
十三年	六七二、二三九	二三、八%
十四年	八一八、五八〇	二六、二%
十五年	九〇七、七三一	二四、五%

第三國輸入額及總輸入額ニ對スル割合

昭和十二年	三、四〇五、五五四	八六、一%
十三年	二、一五二、六三九	七六、二%
十四年	二、三〇七、五二三	七三、八%

十五年 二、八〇〇、五一七 七五、五%

自給自足の立場ヨリ圓ブツクニ對スル期待大ナリト雖モ未ダ建設ノ域ヲ脱シ得ザル現狀ニアリ加フルニ物價高ハ尠ラス日本ヘノ輸出ヲ阻害シツツアル現狀ニアルヲ以テ未ダ満足スベキ域ニ達セザルモ昭和十二年ニ比スレバ昨十五年ハ三億五千九百萬圓六五・七%ヲ増加シツツアルナリ他方第三國ヨリノ輸入ハ昨十五年度ニ比シ約五億圓二一・四%ヲ増加シ居レリ

昭和十二年ヲ百トシ指數ニ依リ其ノ變化ヲ見ルニ次ノ如シ

輸入

昭和十二年	圓ブツク	第三國	計
十三年	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十四年	一二三	六三	七一
十五年	一四九	六八	七九
十六年	一六六	八二	八四

右ノ如ク輸入ト輸出ニ於テハ其ノ趣ヲ異ニシ居リ此ノ結果ハ貿易ノ不均衡ヲ呈スルニ至リモ、ヨリ新ル形體ヲ現出スル事ハ現在ノ國際

狀勢或ハ吾國ノ國是ヨリスルモ已ムヲ得ザル處ナルガ著シク不均衡ナル現狀ヲ是正スルノ緊要ナルハ論ヲ俟タザル處ナルベシ

最近ニ於ケル輸出入貿易ノ狀況

前記ノ如キ狀況下ニ推移シ來リタル貿易狀況ガ本年ニ入リテ後四月迄ノ變化ヲ見ルニ次ノ如シ

(1) 總額、貿易尻

本年ニ入リテノ輸出入貿易總額ハ一月以降四月迄各月共減少シ貿易尻ハ各月共前年全期ニ比シ入超額ヲ増加シツツアリ

月別總額前年比較ハ左ノ如シ (單位千圓)

	十六年	十五年	前年比較増減	全上割合
一月	四九〇、四五一	五一六、〇〇一	△二五、五五〇	△五、〇%
二月	五二五、八八五	六四六、〇四〇	△一二〇、一五五	△一八、六%
三月	六九一、四二三	七四七、六四一	△五六、二一八	△七、五%
四月	六五六、七一五	六四九、一八五	七、五三〇	一、二%

貿易尻前年比較

	十六年	十五年	比較
一月入超	七〇、〇九七	入超四三、四〇三	二六、六九四
二月	四四、四九九	一七、四七〇	二七、〇二九
三月	一五、四六三	一一、九〇九	三、五五四
四月	三〇、七七九	出超五五、六七七	八六、四五六

圖ヲ四ツタ第三國別貿易尻前年比較

	十六年	十五年	比較
一月出超	三四、四二八	出超四四、四四一	△一〇、〇一三
二月	五三、四五八	八一、四〇七	△二七、九四九
三月	七〇、一三二	一〇八、六九一	△三八、五五九
四月	七六、八七七	一二三、八七二	△四六、九九九

第三國

	十六年	十五年	比較
一月入超	一〇四、七七五	入超八七、八四四	一六、九三一
二月	九七、九五二	九八、八七七	△九二五

三月入超 八五、五九五 入超二二〇、六〇〇 △三五、〇〇五
 四月 一〇七、六五六 六八、一九五 三九、四六一

右ノ如ク貿易總額ハ前年全期ニ比シ減少傾向ヲ連リツツアルガ一月ニ於テハ輸出ノ減少セル爲ナリ

二月ハ輸出輸入共ニ減少シタルモノニシテ三月モ亦同様ナリ

四月ニ至リ輸出ハ依然トシテ減少セルニ不拘輸入力増加セル爲總額ニ於テ前年全期ヲ僅カナガラ突破シ居レリ

内容的ニ之レヲ検討センカ從來トハ其ノ様相ヲ異ニシ來レルコトガ看取セラレツ、アリ

其ノ第一ハ圓ブツタ向輸出ノ減退ガ顯著ニシテ必要以上ニ此ノ方面ニ物資ノ流出スル事ヲ押ヘツツアル事即チ圓ブツタ向輸出調整ノ效果ガ顯著ニ現ハレタルモノナル事ハ輸出減少ニ對スル圓ブツタ第三國別割合ニ依ツテモ明カナル如ク二月ヲ除キ各月ノ輸出減少ハ其ノ大部分ガ圓ブツタ輸出ノ結果ニシテ外貨獲得ノ面ヨリ見ル輸出減退割合ハ昨年下期當時ヨリハ改善ノ跡が見ラル、モノナリ從ツテ十四、十五年度ニ見ラレタル圓ブツタヘノ輸出異狀増加ノ傾向ハ多分ニ是正セラレタリ

此ノ結果ハ貿易関係ニ就テモ亦同様ナリ貿易戻ハ一月以降四月迄各月共入超額ヲ増加シ四月ノ如キハ前年全期ニ比シ八千六百萬圓ノ支拂超過トナリ前年ニ比シ著シク貿易状態ヲ悪化シタル如ク見コレ共必ズシモ然ラザルナリ

即チ、圖ブツツ出超ハ漸減傾向ヲ辿リ從ツテ第三國貿易ノ支拂超過ノ増加ハ其ノ割ニハ上昇ヲ見ラレザルナリ

前表ニ現ハレタル如ク一月ハ一千六百萬圓ノ増加トナリ居ルモ二月ハ僅カナガラ減少ニ轉ジ居リ三月ハ三千五百萬圓ノ暴落ヲ示シ四月ハ前年全期輸入減退ニ不拘本年ノ其レハ依然トシテ三月ト同程度ノ輸入ヲナシタル爲三千九百萬圓ト反轉増加シタルモノニシテ内容的ニ見ル貿易戻ハ昨年度ニ比シ惡化ニハアラザルナリ

昨年上半期貿易状態ハ十三年、十四年ニ比スレバ稍好調ナリシモノニシテ之レニ比シ三國同盟締結以後ノ惡條件山積ニモ不拘本年ノ其レガ此ノ程度ニ止マリツツアル事ハ悲觀スベキ現狀ニハアラザルナリ而レ共一月以降四月迄ノ現狀ハ昨年度下期ノ異狀ナル困難ノ後ニ來リタル好況ナリシ爲樂觀的の見方ヲナスモノアルモ變轉極マリナキ國際情勢或ハ

對照トナル貿易市場情勢ノ好轉ハ夢想ダモナシ得サル狀況下ニアリ今後ノ貿易ハ國內的ニモ種々困難性ヲ包藏シ居リ再轉惡化スルヤモ圖ラレス此ノ事タルヤ貿易業者ノミナラズ貿易關係産業部面ニ與フル影響ハ其ノ性質ガ貿易ニ依存スル度合ガ高キヲ以テ深刻ナルモノアルハ豫想ニ難カラサル處ナレバ其ノ趨移ハ最モ注意ヲ要スル處ナルベシ

(2) 輸出狀況

圖ブツツ第三國輸出額前年全期比較(單位千圓)

圖ブツツ

	十六年	十五年	比較	%
一月	一〇三、六七四	一二二、四九六	△一八、八二二	△一五、四
二月	一二九、八五九	一六七、七〇一	△三七、八四二	△三三、六
三月	一七五、二六四	二〇一、四四八	△二六、一八四	△一三、〇
四月	一七六、八五一	二二二、一三〇	△三五、二七九	△一六、六

第三國

	十六年	十五年	比較	%
一月	一〇六、二五三	一二三、八〇三	△七、五五〇	△六、六

輸出總額	十六年	十五年	比	較	%
二月	一一〇、八三四	一四六、五八四	△三五、七五〇	△二四、四	
三月	一六二、七二六	一六六、四一八	△三、七〇二	△一、八	
四月	一三六、一一七	一四〇、三〇一	△四、一八四	△三、〇	

輸出總額	十六年	十五年	比	較	%
一月	二二〇、一七七	二三六、二九九	△二六、一二二	△一一、一	
二月	二四〇、六九三	三一四、二八五	△七三、五九二	△二三、四	
三月	三三七、九八〇	三六七、八六六	△二九、八八六	△八、一	
四月	三一二、九六八	三五二、四三一	△三九、四六三	△一一、二	

圖ブツツ	一月	二月	三月	四月
第三國	二八、九	四八、六	一五、四	一〇、六

右ノ如ク輸出ハ各月共減少シ居ルガ就中其ノ減少ハ圖ブツツニ於シキモノナル事ハ貿易ノ推移ヨリ見ルモ明ニシテ多分ニ抑制的措置ヲ採ラシ其ノ效果ノ現ハレトモ云ヒ得ベク第三國向モ亦減少シツツアリト雖モ其

ノ割合ハ必ズシモ高キモノニハアラザルナリ
左ニ昭和十二年度ヲ百トスル指數ニヨリ一月以降四月迄累計額ニ於ケル圖ブツツ向輸出ノ異狀ナル膨張ノ經過ト抑制ノ結果並ニ第三國貿易ノ現位置トヲ見ルニ次ノ如シ

昭和十二年	圖ブツツ	第三國	計
一〇〇	一〇〇	一〇〇	
十三年	一二八	六五	八三
十四年	一七一	六二	九三
十五年	二四七	七八	一二六
十六年	二〇五	七一	一〇九

右ニ依リ圖ブツツ輸出ノ抑制ノ跡並ニ第三國向輸出ノ現位置ノ程度ヲホ々推知シ得ルト共ニ輸出總額ニ於ケル現狀ヲモ知リ得ベシ
而レ共物價ノ位地ヲ考慮ニ入ルルナラバ量的ナ外貨購買力獲得ノ點ニ就テハ決シテ樂觀ヲナシ得ザルハ云フ迄モナク況ヤ今後ノ貿易ノ困難性ヲ思フ時尚更ノ事デアリ第三國向輸出振興ノ緊要性ハ益々加重サレツツアリト云フヲ得ベシ

(3) 輸入狀況

圓ブツ第三國別輸入額前年全期比較（單位千圓）

圓ブツ

	十六年	十五年	比較	%
一月	六九、二四六	七八、〇五五	△八、八〇九	△一一、三
二月	七六、四〇六	八六、二九四	△九、八八八	△一一、五
三月	一〇五、一三二	九二、七五七	一二、三七五	一三、三
四月	九九、九七四	八八、二五八	一一、七一六	一三、三
第三國				
十六年		十五年	比較	%
一月	二二一、〇二八	二〇一、六四七	九、三八一	四、七
二月	二〇八、七八六	二四五、四六一	△三六、六七五	△一四、九
三月	二四八、三一	二八七、〇一八	△三八、七〇七	△一三、五
四月	二四三、七七三	二〇八、四九六	三五、二七七	一六、九

輸入總額

	十六年	十五年	比較	%
一月	二八〇、二七五	二七九、七〇二	五七二	〇、二
二月	二八五、一九二	三三一、七五五	△四六、五六三	△一四、〇
三月	三五三、四四三	三七九、七七五	△二六、三三二	△六、九
四月	三四三、七四七	二九六、七五四	四六、九九三	一五、八

輸入ハ國際收支ノ均衡ヲ保ツ上カラ輸出ト大体同一步調ヲ辿ルベキモノナルガ輸入對照國タル英米就中米ノ動向ハ益々對日經濟壓迫對日輸出ノ禁止的措置ノ範圍ヲ擴大セントシツツアル現狀ナルヲ以テ輸出振興第一主義ハ軍需其他重要品ノ獲得第一主義即チ輸入第一主義ニ轉ズル事ハ已ムヲ得ザル處ナリ尙更ニ求償貿易主義ヘノ貿易轉換ハ輸入確保ノ手段トシテ輸出ヲサントスルノ傾向ヲサヘ生ズルニ至リツツアリ加フルニ各國ノ爲替管理強化ハ國際情勢ノ見透困難、決濟ニ對スル不安ト共ニ其ノ態様ヲ異ニシ來リツツアルヲ以テ輸入額ノ増減或ハ輸出入ノ均衡ヲ以テ直チニ其ノ好惡ヲ斷定スルハ當ヲ得ザルベシ寧ロ重要物資確保情況の點ヨリ見ルガ妥當ナルベク斯ル見地ヨリ之ヲ見ルナラバ

圖ヲ同ツタハ一、二月ハ悪ク二、三月ハ引續キ増加シ四月迄累計ニ於テ
 ハ前年全期ニ比シ
 五百四十萬一千圓 一、五%ト僅カナガラ増加シ
 三億五千七十四萬八千圓ヲ示シテ居リ第三國ノ其レハ一月ト四月ガ増加
 シ二、三月ハ減少ヲ示シ居リ累計ニ於テハ前年全期ニ比シ三千四十四萬
 圓三、二%ヲ減ジ九億一千二百十七萬二千圓ヲ計上シツツアリ總額ニ於
 テハ一月ハ大体前年ト同様デアリ二、三月ハ減少四月ハ増加トナリ居ル
 ハ第三國ト同様ナリ累計ニ於テハ前年全期ニ比シ二千五百三萬九千圓
 二、〇%程度ヲ減少シ十二億六千二百九十二萬圓トホ、同様ナ數字ヲ示
 シツツアリ
 輸出ガ前年全期ニ比シ一億六千九百六萬九千圓 一三、三%ヲ減ジ
 十一億百八十萬六千圓ヲ示シツツアルノト對照シ見レバ此ノ間ノ事情ハ
 明ナルベシ今後同様ナ方向ニ進ミ或ハ斯ル傾向ノ強化サルルハ豫想ニ難
 カラザル處ナルベシ
 昭和十二年度ヲ百トシ指數ニ依ツテ圖ヲ同ツタノ物資供給力ノ變化即チ
 或ル意味デノ發展過程ヲ見、第三國ヨリノ物資獲得狀況ト輸入ノ現位置

ヲ見ルニ次ノ如シ
 ハ一月以降四月迄累計ニ

	圖ヲ同ツタ	第三國	計
昭和十二年	一〇〇	一〇〇	一〇〇
十三年	一〇九	六〇	六八
十四年	一二〇	六一	七一
十五年	一五四	八〇	九二
十六年	一五六	七七	九〇

森田國太郎對(金)價値批判

	12年	13年	14年	15年	16年
田中 第三回	56,296	60,477	24,107	122,496	103,674
田中 第三回	58,492	51,759	59,338	78,655	69,246
田中 第三回	152,158	111,734	92,719	113,613	116,253
田中 第三回	261,477	157,275	155,464	201,447	211,628
田中 第三回	202,454	172,271	176,821	236,279	215,177
田中 第三回	319,767	207,035	214,802	279,702	281,274
田中 第三回	522,423	321,306	371,631	516,001	490,451
田中 第三回	111,515	36,764	37,773	43,403	70,077
田中 第三回	64,707	74,778	123,781	167,701	129,859
田中 第三回	59,688	55,278	71,402	86,294	76,416
田中 第三回	172,027	117,163	106,032	146,584	116,834
田中 第三回	257,650	145,728	189,518	245,461	208,714
田中 第三回	236,738	192,141	230,013	314,285	240,693

SHIPPING ADVICE# 18057
SACK # 1
ITEM # 9

Items 7-9

SHIPPING ADVICE# _____
SACK # _____
ITEM # _____